

世界遺産登録 勝連城跡

国指定史跡 おすすめスポットガイド

一の曲輪から眺める日の出



沖縄の崇拝文化を知ろう

沖縄には様々な神が存在します。村を守る神、台所を守る神、沖縄を作った神話上の神、沖縄人を見守る先祖の神。勝連城は、これらの神が祀られている場所である「御獄(うたき)」が多く存在する神聖な場所です。御獄では神人(カミンチュ)と呼ばれる神職者が、公的な宗教儀礼を執り行います。

1 玉ノミウチ御獄

按司(地方の権力者)の守り神を祀った拝所で、大きな岩は勝連を守る霊石。「かつてはウシヌジガマとつながっていた」という説も残っています。

2 ウシヌジガマ

ガマとは洞穴のこと。天災や戦のとき、ここに身を潜めて難を逃れたといわれています。

3 ウミチムン(火の神)

ここは台所であったと考えられています。「火の神」とは台所に祀られている家の神のこと。沖縄では今でも主婦が家族への加護を願い、台所で火の神をまつています。

4 トウヌムトウ

旧暦2月と5月に行われるウマチー(収穫祭)の際、神人(カミンチュ)が腰かけていた座石。

5 ミートゥガー(夫婦ガー)

縁結びの井戸。ここで恋が成就すれば永遠のちぎりに。だが、失恋すると男女のどちらかが命を落とすとが...

6 ウタミシガー

旧正月の元旦に水量を見て、その年の作物の出来を占っていた井戸だといわれています。
・水が少ない⇒豊作
・水が多い⇒凶作



- 雨の日は大変滑りやすくなっています。足元には十分お気を付け下さい。
- 城壁には上らないよう、お願いいたします。





繁栄、そして衰退… 時は15世紀 勝連の浪漫はそこにあった。

言い伝えによると、初代城主の勝連按司(※1)は五代まで続きましたが、世継ぎができず、六代目城主として伊波按司の六男を養子に迎えました。その後、七～八代目は浜川按司となります。九代目の茂知附按司は、圧政を敷き酒に溺れたため、人々の信頼の厚かった阿麻和利によって倒されました。阿麻和利は十代目の城主となり、海外貿易によって勝連に繁栄をもたらしました。

(※1) 按司:地方の権力者、豪族



“一の曲輪”には何があったの？

「貴重品を保管する倉庫があったのでは？」という説があるよ。

“二の曲輪”にはどんな建物があったの？

首里城正殿のような柱の多い立派な建物があったと考えられてるよ。城の中で最も重要で、今で言う役所のような役割をしていたんだ。

南風原御門

勝連城はどうして繁栄したの？

中国陶磁器類が大量に出土することから、勝連は海外貿易の中心地として栄えたと考えられるんだ。
宋・元・明代の陶磁器をはじめ、東南アジアの陶器、大和や高麗系の瓦、中国・大和の古銭、玉類、銅製品、鉄製品、甲冑片などが発掘されたんだ。

東の曲輪

一の曲輪

二の曲輪

三の曲輪

西原御門

“三の曲輪”は何に使われていたの？

儀式などを執り行う広場として使われてたんだよ

あまわり 最後の勝連城主 阿麻和利

阿麻和利の勢力に脅威を感じた琉球国王(※2)・尚泰久は、重臣の護佐丸を中城城に住まわせ阿麻和利を牽制し、娘の百度踏揚を嫁がせました。

ところが、天下統一を目指した阿麻和利は1458年に護佐丸を倒し(護佐丸・阿麻和利の乱)、王府打倒へ動き出しました。しかし、それを妻の百度踏揚と大城賢雄(百度踏揚の付き人)に知られてしまいます。

2人が国王に危機を伝えたことで、阿麻和利は大城賢雄率いる王府軍によって滅ぼされてしまいました。

(※2) 琉球:1429年から1879年までの450年間、沖縄は琉球王国という独立国家を形成していた。

多くの歴史書では、阿麻和利は琉球王府に歯向かった悪者として扱われています。しかし、その後の研究によって名君であったと称えられていたことが分かり、「護佐丸・阿麻和利の乱」は2人の力を恐れた琉球王府が、彼らを排除するために仕組んだものだという説も浮上しています。

ももとふみあがり 悲劇の王女 百度踏揚

百度踏揚は夫の阿麻和利を殺した大城賢雄と再婚します。しかし、その賢雄も王府の陰謀により殺され、夫を失った百度踏揚は寂しい隠居生活を送ったと言われています。

政略結婚に利用され、二度も夫を失った百度踏揚は、まさに悲劇の王女と言えるでしょう。

